

平成 27 年度教職員派遣研修に関するアンケートの集計結果

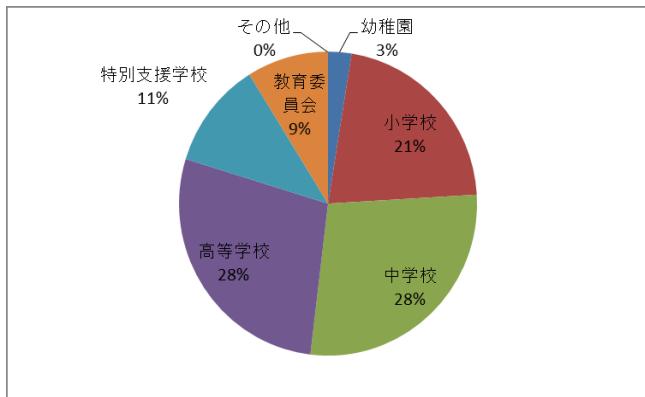
(平成 26 年度に派遣研修を受けた教職員の 1 年後の成果還元度アンケート)

集計総数 79 名

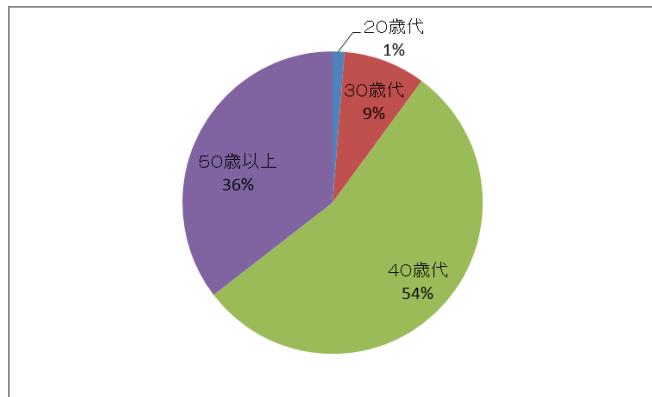
派遣分野

- ①教職員等中央研修（校長マネジメント研修、副校長・教頭等研修、中堅教員研修）
- ②生徒指導指導者養成研修
- ③事務職員研修
- ④英語教育海外派遣研修（2ヶ月）
- ⑤教育課題研修指導者海外派遣プログラム
- ⑥日本人若手英語教員米国派遣事業（6ヶ月）
- ⑦教頭等民間派遣研修
- ⑧特別支援教育専門研修
- ⑨長期内地派遣研修
- ⑩産業教育実地研修
- ⑪日韓学術文化青少年交流事業

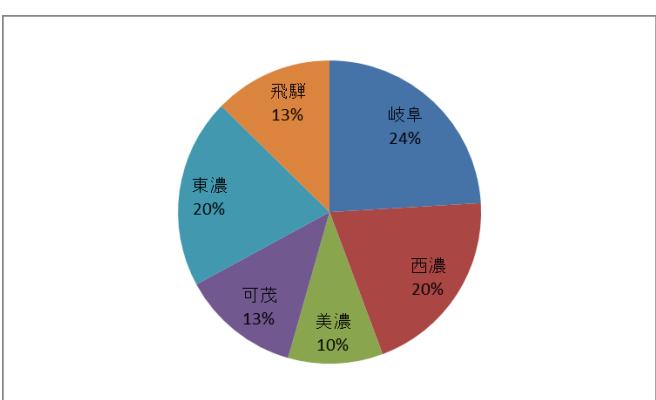
所属種別（平成 26 年度所属）



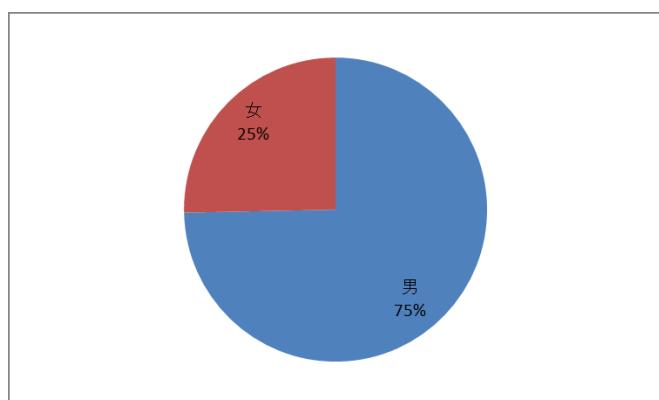
年代別



地区別



男女別



設問ごとの集計

設問1 あなたはどのような期待のもとに、研修に参加しましたか。
(主なものを2つ以内で選択)

選択肢	回答割合 (%)
ア 教員としての視野を広げるため	37
イ リーダーとしての素養の獲得のため	17
ウ 当面する課題の解決に必要な知識・技能の習得のため	23
エ 研修先からの最新の教育情報を入手するため	18
オ 研修先での交流を通して教育情報を入手するため	6
カ その他	0

設問2 (1) 研修の成果は、ありましたか。

「はい」…100%, 「いいえ」…0%

(2) 「はい」の理由 (主なものを2つ以内で選択)

選択肢	回答割合 (%)
ア 学校の特色を生かした教育課程の編成等教育内容の充実に役立っている	16
イ 学校の運営面で役立っている	22
ウ 勤労意欲、職場の士気の高揚に役立っている	11
エ 学校の危機管理に役立っている	11
オ 学校・家庭・地域との連携強化に役立っている	6
カ 若い教員の指導に役立っている	13
キ 教科指導の面で役立っている	19
ク その他	3

・トマトの栽培技術が向上した。
・帰国後も全国の研修参加者や講師と英語教育や授業改善の交流ができる。
・人材活用や育成、マネージメント力の向上や危機管理の在り方を学ぶことができた。
・LHRなどの活用

設問3（1）研修終了後、意識面に変化がみられましたか。

「はい」…100%、「いいえ」…0%

（2）「はい」の理由（主なものを2つ以内で選択）

選択肢	回答割合 (%)
ア 視野が広がった	42
イ 指導力が養われた	19
ウ 積極性が養われた	6
エ 責任感が養われた	18
オ 協調性が養われた	4
カ 考え方が論理的になった	10
キ その他	1

・生徒の実態をふまえ、どのような段階を経れば身に付けたい力に到達するのかを論理的に考えて議論することができるようになった。
・生徒のためになると考えた提案には、積極的に相談に乗り、「計画・実践・中間振り返り・反省」のサイクルで活動することで、生徒も職員も、願いをもって仲間のためになる活動を行いたいと自ら動くようになった。

設問4（1）研修終了後、研修の成果をそれぞれの職場や地域で還元しましたか。

「はい」…99%、「いいえ」…1%

（2）「はい」の理由（主なものを2つ以内で選択）

選択肢	回答割合 (%)
ア 学校の中で同僚を対象とした研修報告会を実施した	43
イ 学校の中で児童生徒を対象とした研修報告会や特別授業を実施した	11
ウ 報告書や刊行物を作成し配布した（教員研修センターや教育委員会への提出など義務的なものは除く）	9
エ 教員で構成される研究会等(例：教育研究会等)で発表した	19
オ 学校外で一般向けの講演等を実施した	3
カ 岐阜県総合教育センター等の研修講座の講師を務めた	6
キ その他	9

・教頭便りで研修内容等について職員へ広めた。
・居住地域の青少年育成協議会で報告研修会
・県教育委員会や県事務職員研究会、市の事務職員部会が主催する研修会
・ものづくり競技大会出場選手への技能・技術指導
・岐阜県の難関大学を目指す高校生のための入試研究会講師

研修の成果・意識の変化について（意見抜粋）

- 研修で学んだ成果を踏まえた授業改善（ＩＣＴ機器の活用）を行い、実践として示すことで、他の教科の教員も授業実践に取り入れる様子が見られた。
- アクティブ・ラーニングの視点を盛り込んだ、学校教育計画の改善に役立った。また、より現実の状況に近い「命を守る訓練」の実施に役立った。
- 日本が目指す教育の方向性の具体像を知ることができ、これからの人材育成の方向性を確信し、SGH、進路指導などで活用できる情報を手に入れることができた。アクティブ・ラーニングの効用について、職員間で議論したりしている。
- 小学校で、専門教科、得意教科による教科担任制ができる範囲で導入することで、児童たちにより専門的な力を持つことができる。また、フィンランドの算数、数学では、実生活に基づいた内容が多くあった。日本でも、地域や実生活に基づいた教材をできる限り導入することが、児童生徒たちの興味関心につながり、意欲的に学習する要因につながるから。
- いじめ（モビング）への対応や未然防止などの先進的な取り組みを学ぶことができた。学校の組織体制を明確にすることや、自治活動を推進するバディプログラムなど、そのまま取り入れることができなくても、何らかの形で還元できると感じた。また、職員の平均年齢が低く、経験年数が浅い教員が多くいることから、若い教員へ学級づくりや自治力をはぐくむ指導法などを教授する際にも、積極的に活用していきたいと思った。
- 企業の利益追求の厳しさ、すべての実績を数値化して評価することの厳しさを実感したことで、教育活動にも数値目標を決め、成果をあげるという責任感をより一層感じるようになった。
- 自分の役割を今まで以上に意識して、発言したり行動できるようになった。伝え方を今まで以上に重要視するようになった。
- 我流で授業を組み立てるのではなく、何らかの理論などに基づいてさまざまな視点から考えられるので、以前より自信を持ってできる。
- 勤務校のみならず、地域において英語教育を推進する中核的な役割を果たさなければいけないという意識を持つようになった。生徒を自律した学習者に育成するためにも、研修中にGIL Tutorialで学んだ実践を継続して、自分自身の英語指導力向上に努め、他の英語科教員に対しても、具体的かつ実践的な研修の場を提供していくようになりたい。
- ミドルリーダーとしての自覚が高まり、若手の育成や学校運営に積極的に参加しようとする意識が高まった。
- からの事務職員は「事務トーク」ができるだけでなく、「スクールトーク」、学校を語ることができる事務職員にならなければならないと教えていただいた。また、全国の事務職員と出逢い、学校での職務、子どもとのかかわりなどを語る中で、刺激を受けることばかりであった。また、全国的に推進されている「共同実施」リーダーの方から、教職員と協働して仕事をしていくこと、チームとして仕事をしていくことの楽しさや難しさ。若年層の育て方、働きかけ方など、これから自分自身に必要となりえる資質をしきことができ、自覚と覚悟ができた。

どのように職場や地域に還元したか（意見抜粋）

- 特別支援教育研究発表会 特別支援学校教員 40名
- 運動部活動サミット 中高 教員 300名
- 農業高校 2.3年生を対象とした科目「野菜」の授業と記録誌「農業教育」に投稿。
- 毎月の職員会議におけるミニ研修会（15分程度）
- 各学年の児童を対象にアイスブレイクやエンカウンターを取り入れた授業、6年生の児童を対象にキャリア教育（進路選択の方法など）
- 中学生対象出前授業（飛騨市立古川中学校3年生36名）、英語指導力向上講座での英語教育海外派遣研修先紹介（県内英語科教員16名）、海外派遣研修報告会（勤務校教職員40名）
- 教科指導講座 中高英語 英語授業指導力向上講座 対象県内英語教員 40名程度
- 岐阜県総合教育センターの進路指導主事会において、キャリア教育の実践について講師
- 県総合教育センター『教科指導講座中外国語～「グローバル化」と言われる時代だからこそ考えたい！英語教師に求められるもの、英語教師が求めるもの』参加者：約20名
- 平成27年度公立小中学校事務職員主査研修会講師（主査昇任者：6名）
- 平成27年度スキルアップ研修講師（希望者：約40名）
- 平成27年度郡上市教育研究会第3回小中学校事務職員部会講師（会員：30名）
- 平成27年度県小中学校教育研究会事務職員部会会誌（20ページ：3名で分担）
- 県総合教育センター 研修講座2206「いじめ」問題対応講座いじめの早期発見・早期対応講師
- 可茂地区小中校長会研修総会62名、美濃加茂市園長・小中校長・高等学校長交流会36名、教頭教務夏季特別講座18名
- 小中学校の教育課程研修会（8月、2日間、理科教員38名）や他校の校内研究会（10月、12月、1月に3回、小学校1校、中学校2校）で指導・助言
- 不破郡の先生方を集めた自主研修会で研修内容を伝達、若手教師を中心に20名の参加
- 保護者進路説明会講師(pptスライド50枚)
- 学校教育相談学会 研修会にて 講師を務めた。
- 校内職員向け LHR 研修会講師(A4 2枚)